

新約聖書 ルカによる福音書 14 章 25 節—33 節（新共同訳）

²⁵ 大勢の群衆と一緒にいて来たが、イエスは振り向いて言われた。²⁶ 「もし、だれかがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎まないなら、わたしの弟子ではありえない。²⁷ 自分の十字架を背負ってついて来る者でなければ、だれであれ、わたしの弟子ではありえない。²⁸ あなたがたのうち、塔を建てようとするとき、造り上げるのに十分な費用があるかどうか、まず腰をすえて計算しない者がいるだろうか。²⁹ そうしないと、土台を築いただけで完成できず、見ていた人々は皆あざけて、³⁰ 『あの人は建て始めたが、完成することはできなかった』と言うだろう。³¹ また、どんな王でも、ほかの王と戦いに行こうとするときは、二万の兵を率いて進軍して来る敵を、自分の一万の兵で迎え撃つことができるかどうか、まず腰をすえて考えてみないだろうか。³² もしできないと分かれば、敵がまだ遠方にいる間に使節を送って、和を求めるだろう。³³ だから、同じように、自分の持ち物を一切捨てないならば、あなたがたのだれ一人としてわたしの弟子ではありえない。」

※第 1 朗読と第 2 朗読は末尾に掲載

説教「自分の十字架」

マルティン・ルーサー・キング・ジュニアという牧師がいました（1929 年—1968 年）。キング牧師は、アメリカ南部において人種差別の撤廃と、真の平等と、平和の実現を訴えた人物です。

キング牧師が生きた 20 世紀半ばのアメリカでは、14 歳の黒人の少年が、白人女性に向かって口笛を吹いたというだけで、その白人女性の夫や友人によって殺され、かつ裁判では加害者側に無罪の判決が出るほどの、非人道的な黒人差別が横行していました。

そのような時代に、キング牧師のように、人種差別の撤廃を求める運動をすることは、命懸けの闘いでした。キング牧師は、脅迫電話や脅迫状を頻繁に受け取り、自宅のポーチ（玄関前）が爆破されたこともありました。

ある夜更けにかかってきた脅迫電話を切ったあと、キング牧師の中に恐怖心が一挙に押し寄せてきました。そして恐れに駆られたキング牧師が、この活動をもう辞め、表舞台からうまく身を引く方法を考えようとした時、何者かが自分に語りかけるのを聞くのです。

「お前は今、父親に電話してはならない。母親に電話してもならない。お前はただかつてお前の父が語ってくれたあの方に語りかけなければならない。道なき所に道をお作りになるその方の力に語りかけるのだ」。

そして、キング牧師は主イエスに向けて自分の弱さを告白し、祈りました。その時、キング牧師は主イエスからの励ましの言葉を心のうちに聞き、すべての恐怖心が消え、何事にも立ち向かっていけるようになったそうです。

キング牧師は、真の自由と平等の実現を人々に呼びかけ、憎しみの連鎖を断ち切るために、あくまで非暴力を貫きながらも、一切妥協せず、最後まで精神の力で闘い抜きました。

キング牧師の代表的な演説の言葉に、こうあります。「わたしには夢がある。いつの日か、ジョージアの赤い丘のうえで、かつての奴隷の子孫たちと、かつての奴隷所有者の子孫たちが、兄弟として同じテーブルにつくことができるという夢が」。

黒人と白人が真に「兄弟」となることを願うキング牧師の思いは、主イエス・キリストの御心のもとにあり、黒人を虐待してきた白人への、恨みや憎しみ、復讐心を越えたところにありました。

キング牧師は、攻撃や暴力によってではなく、愛ある言葉の力で、人々の良心に訴えかけることによって、黒人の公民権を勝ち取っていったのです。

のちに 39 歳で暗殺されたキング牧師は、このような言葉を残しています。

「もし人が死ぬに値する何ものかを発見しなかったならば、その人は生きるに値しない」。

「わたしはわが民の自由のために立ち上がって死のう」。

本日の福音書で、イエスは大勢の群衆に向かってこう語りました。「自分の十字架を背負ってついて来る者でなければ、だれであれ、わたしの弟子ではありえない」（ルカ 14:27）。

自分の十字架を背負ってイエスに従うとき、私たちは主イエスと共にいて、そこには主イエス・キリストとの愛の交わりがあるのです。

弟子となってイエスに従うことは、自分を捨てることであり、愛の労苦を負い、またこの世の中で苦難を経験することでもあります。だからこそイエスは、主に従うということを、群衆が安易に考えないように、それには大きな覚悟が必要であることを語りました。

しかしそれは、ただ大変なばかりの労苦、苦難ではなく、キリストと共に負う労苦であり、キリストと共に経験する苦難です。それゆえに私たちは、どのような困難が起きようとも、それに耐えることができるのです。主イエス・キリストと私たちとの愛の結びつきが、私たちにその力を与えるのです。

本日の福音書は、イエスのこのような言葉で締めくくられます。「だから、同じように、自分の持ち物を一切捨てないならば、あなたがたのだれ一人としてわたしの弟子ではありえない」（ルカ 14:33）。

私たちが、自分の意志の力で持ち物を捨てるのではありません。主イエスとの愛の結びつきがそれを可能にするのです。

そしてイエスが私たちに問うていることは、ただ捨てることではなく、ご自身への愛なのです。

イエスに従う時に、わたしたちが腰を据えて考えなければならないことは、すべての持ち物を捨て去る意志の強さが自分にあるかどうかではなく、あらゆる苦難を耐える忍耐力が自分の中にあるかどうかでもありません。

イエスを愛し、主との愛の交わりの中に生きることを心から喜び、それが実現するようにという願いが、自分の中にあるかどうかです。その愛、その願いが、塔を建てるという困難な業を最後まで遂行させる力であり、二万の兵を一万の兵で迎え撃つための原動力となるのです。

先ほど引用したキング牧師の言葉をもう一度お読みします。「もし人が死ぬに値する何ものかを発見しなかったならば、その人は生きるに値しない」。

そしてまた、人生とは、生きるに値する何ものかを発見する旅でもあるのです。

キング牧師から思わされたことがあります。

それは、キリストに従うとは、自分自身は死と隣り合わせのような苦難や困難の中にいる時も、周囲の人々に、生きるに値する希望を与える生き方、在り方をする事なのだろうということです。

私たちは、それぞれの置かれた状況の中で、どんなささやかなともし火でも、周囲を照らす希望のともし火を心のうちに灯しながら、共に歩いていきましょう。

お祈りをいたします。

全能の神様。私たちが、あなたの望まれる平和の世界を見、実現するために、あなたの愛に結ばれて生きていくことができますように。生きる希望と喜びを、私たちや周囲の人々が、見いだすことができますように。御子 主イエス・キリストによって祈ります。アーメン

***** 説教ここまで *****

以下、本日に関連する聖書箇所（第1朗読と第2朗読）です。

旧約聖書 申命記 30章 15節—20節（新共同訳）

¹⁵ 見よ、わたしは今日、命と幸い、死と災いをあなたの前に置く。¹⁶ わたし
が今日命じるとおり、あなたの神、主を愛し、その道に従って歩み、その戒め
と掟と法を守るならば、あなたは命を得、かつ増える。あなたの神、主は、あ
なたが入って行って得る土地で、あなたを祝福される。¹⁷ もしあなたが心変わ
りして聞き従わず、惑わされて他の神々にひれ伏し仕えるならば、¹⁸ わたしは

今日、あなたたちに宣言する。あなたたちは必ず滅びる。ヨルダン川を渡り、入って行って得る土地で、長く生きることはない。¹⁹ わたしは今日、天と地をあなたたちに対する証人として呼び出し、生と死、祝福と呪いをあなたの前に置く。あなたは命を選び、あなたもあなたの子孫も命を得るようにし、²⁰ あなたの神、主を愛し、御声を聞き、主につき従いなさい。それが、まさしくあなたの命であり、あなたは長く生きて、主があなたの先祖アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓われた土地に住むことができる。

新約聖書 フィレモンへの手紙 1 節—21 節（新共同訳）

¹ キリスト・イエスの囚人パウロと兄弟テモテから、わたしたちの愛する協力者フィレモン、² 姉妹アフィア、わたしたちの戦友アルキポ、ならびにあなたの家にある教会へ。³ わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように。

⁴ わたしは、祈りの度に、あなたのことを思い起こして、いつもわたしの神に感謝しています。⁵ というのは、主イエスに対するあなたの信仰と、聖なる者たち一同に対するあなたの愛とについて聞いているからです。⁶ わたしたちの間でキリストのためになされているすべての善いことを、あなたが知り、あなたの信仰の交わりが活発になるようにと祈っています。⁷ 兄弟よ、わたしはあなたの愛から大きな喜びと慰めを得ました。聖なる者たちの心があなたのお陰で元気づけられたからです。

⁸ それで、わたしは、あなたのなすべきことを、キリストの名によって遠慮なく命じてもよいのですが、⁹ むしろ愛に訴えてお願いします、年老いて、今はまた、キリスト・イエスの囚人となっている、このパウロが。¹⁰ 監禁中にもうけたわたしの子オネシモのことで、頼みがあるのです。¹¹ 彼は、以前はあなたにとって役に立たない者でしたが、今は、あなたにもわたしにも役立つ者となっています。¹² わたしの心であるオネシモを、あなたのもとに送り帰します。¹³ 本当は、わたしのもとに引き止めて、福音のゆえに監禁されている間、あなたの代わりに仕えてもらってもよいと思ったのですが、¹⁴ あなたの承諾なしには何もしたくありません。それは、あなたのせっかくの善い行いが、強いられたかたちでなく、自発的になされるようにと思うからです。¹⁵ 恐らく彼がしばらくあなたのもとから引き離されていたのは、あなたが彼をいつまでも自分のもとに置くためであったかもしれません。¹⁶ その場合、もはや奴隷としてではなく、奴隷以上の者、つまり愛する兄弟としてです。オネシモは特にわたしにとってそうですが、あなたにとってはなおさらのこと、一人の人間としても、主を信じる者としても、愛する兄弟であるはずです。

¹⁷ だから、わたしを仲間と見なしてくれるのでしたら、オネシモをわたしと思って迎え入れてください。¹⁸ 彼があなたに何か損害を与えたり、負債を負ったりしていたら、それはわたしの借りにしておいてください。¹⁹ わたしパウロが自筆で書いています。わたしが自分で支払いましょう。あなたがあなた自身を、わたしに負っていることは、よいとしましょう。²⁰ そうです。兄弟よ、主によって、あなたから喜ばせてもらいたい。キリストによって、わたしの心を元気づけてください。

²¹ あなたが聞き入れてくれると信じて、この手紙を書いています。わたしが言う以上のことさえもしてくれるでしょう。